

研究報告要旨

持続可能な公園墓地の空間管理と墓園運営
—アメリカの歴史的田園墓地に着目して—

代表 坂井 文（東京都市大学 都市生活学部都市生活学科 教授）

【研究報告要旨】

本研究は、一般市民に公園のように親しまれるよう整備されたアメリカの歴史的な田園墓地が、約二世紀にわたって良好な状態で管理運営されているしくみしくみを明らかにし、今後、墓地需要の増加が想定される日本の墓園の整備と運営に対する有用な知見を提示することを目的としている。

アメリカの田園墓地は 19 世紀前半、都市化する都市の死亡者数の増加に対応するために、郊外に無宗派の民間墓地として誕生した。これまでにその歴史については研究があるが、現在に続く田園墓地の空間管理と墓園運営に着目した調査研究はない。

調査を通して明らかになった主な点として、田園墓地は、内国歳入法による免税組織である 501(c)(13)によって資産管理され、別タイプの免税組織 501(c)(3)によって墓地の利活用の取組みを運営するしくみになっており、資産管理と利活用による市民理解向上の役割分担が行われている。また歴史的墓地に共通する、限定的な新規墓地開発による運営の停滞という実情に対して、空間特性と利用者動向の正確な把握からマスタープランや戦略を作成し保全すべきエリアと開発可能性箇所の選定を行っていた。さらに墓地のオープンスペースとしての今日的な意義を明らかにするために、大学連携による生態系の調査研究や、樹木情報の GIS 上でのデータ管理と情報発信等の取組みが行われていた。最後に、田園墓地の歴史的・文化的価値や自然価値は社会で共有する資産であることの市民理解や、墓地のネガティブなイメージ転換のためのパブリックエンゲージメント活動が展開されていた。

つまり、資産管理と利活用をそれぞれ行う二層構造の組織構成、歴史的・文化的価値を再認識したうえでの新規開発可能性の探求、専門家による自然価値のデータ分析と開示、パブリックエンゲージメントを高める活動の展開についてその方法の知見が得られた。